



おしえの花束

雲晴

— 中道 —

「雲 晴」第三号

平成二十四年七月一日発行

貞 林 院 瑞 正 寺

〒125-0041 東京都葛飾区東金町五丁目四六一番五
電話 (03) 3627-1341
FAX (03) 5699-5915

仏教の根本精神は、

— 中道 (ちゆうどう) —

です。仏教の開祖のお釈迦さまは、出家した直後は苦行をしていました。何十日間もの断食といった苦行で、それはまさに生命を賭したものでした。

しかし、苦行によっては真理を悟れぬことを知ったお釈迦さまは、そこで中道に転じたのです。中道を行くことよって、お釈迦さまは悟りを開き、仏陀となることができました。

それゆえ、中道こそが仏教の根本精神なのです。

では中道とはなんでしょうか？

じつは、中道とは、— いい加減 — だと思います。そう言えば、「そんないい加減なことを言うな！」と叱られそうですが、いい加減^{しか}^々といった言葉は、なかなか味のあるものなのです。

お風呂の湯加減を思い出してください。

「いい加減ですよ……」

と言うとき、その湯加減は決してぬるま湯ではありません。

熱い湯の好きな人には熱い湯が、ぬるい湯の好きな人にはぬるい湯が、いい加減です。

つまり、それぞれのいい加減があるのです。十把^{じゅうば}ひとからげのいい加減があるわけではないのです。

だとすれば、わたしたちは、それぞれが自分のいい加減を考えねばなりません。

働くことにしても、それよって得られる収入にしても、なにもがんばる必要はないのです。

がんばりにがんばって、過労死でもしたらつまりません。

でも、自分のいい加減を見つけることは、案外むずかしいですよ。

東日本大震災から早や一年余が経つてしまいました。被災地の復興は遅々として進まず、原発からの避難者はふるさとに帰れる目途も立ちません。このような状況にもかかわらず、この原稿を書いてい

どと大騒ぎしていることでしょう。日本人は熱しやすく冷めやすいとよく言われますが、震災発生後に全国の人たちが心を一つにして「自分たちに何ができるのだろう」と支援した気持ちを

津波で家を流され、家族をなくした方々、原発で家族ばらばらの生活を余儀なくされている人たちは先の見えない不安を抱え、心の傷は増々深くなっていることでしょう。

忘れないで

貞林院瑞正寺住職 林

清方

もボランティア
や宗教関係の支援は続けられておりますが、今一度私たちは昨年の三月を振り返り、被災地への思いをあらたにすることが大事ではないでしょうか。復興の道はまだ始まったばかりです。合掌

五月は連日のように、オープンした東京スカイツリーの話ばかりです。そしてこれが読まれる七月の新聞・テレビはロンドンオリンピックの報道一色で、世間も「メダルは何個取れるか」な

ちはどこに行ってしまったのでしょうか。政治家とマスコミの姿勢こそが震災を過去のものにしていくような気がしてなりません。

噺の泉

落語の世界を訪ねて



夏は暑い。当たり前ですな。それにしても暑い。雷さんでも呼んでみませんか。

「へい、今朝早くご出発になりました。」

「月日の立つのは早いもんだね。」

お日様とお月様と雷様が仲良く旅を致しました。久しぶりのことで初日から宿屋での御酒がすすみまして、特に雷様は「へべのレケ」昼近くに目を覚ましてみるとお日様とお月様がいない。「番頭さん二人はどうしたね。」

「雷様はどうなさいます。」

「私はゆつくり夕立ちだ。」

「それにしても暑いね。夕立ちでも来てくれると嬉しいんだが、雲ひとつ無いよ。」

「夕うく立ちいく。夕立はいりませんか。夕うく立ちいく、夕立屋でございませう。」

「番頭さん、表で夕立はいりませんか、夕立屋とかいつているけど呼んでみよ。」

「へい、お呼びでございますか。」

「今夕立屋と言っていたようだが、あのザーっとくる夕立のことかい。」

「へい左様でございます。」

「本当に降らせられるかい。」

「お望み通りに降らせませう。こちらが料金表で。」

「何々庭先だけ五十文。向こう三軒両隣だと二百文、町内全体だと二分かい。」

法話



「命を大事にする教え」

相変わらず凶悪な事件や悲惨な事故が相次いで、尊い命が奪われています。また、自ら命を絶つ人々も後を絶ちません。私たちはこれまで、苦しみの世界を生まれ変わり、死に変わり、輪廻転生を繰り返してきました。そして、ようやく生まれ難き人として、この世に生を受けたのです。この命は、死んで終わりというわけではありません。悪い事をすれば、再び輪廻の世界で生死を繰り返し、苦しむというのが仏の教えです。

今の社会を見ると、悪事があまりにも横行しています。政治家、企業の経営者、教育者など、指導的立場にある人たちが、決められたことを破り、それが露見してそろって頭を下げ謝罪をしています。この人たちの次の世は、再び輪廻の世界に戻され、苦しみを続けなければなりません。これは命を粗末にした結果ということになります。

鎌倉時代の諸宗派

一 曹洞宗 ③ 一

曹洞宗の寺院

永平寺 (福井県吉田郡)

曹洞宗の大本山。開基は波多野義重。義重の請により、道元禪師は、寛元元年(一二四三)京都から越前に移り、翌年大佛寺(永平寺の前身)が建立され、寛元四年寺号を永平寺と改めました。約十萬坪の広さを持ち、樹齢七百年といわれる老杉に囲まれています。

総持寺 (神奈川県横浜市)

曹洞宗の大本山。明治四四年(一九一一)石川県鳳至郡から現在地に移転されました。もとの総持寺は鑿山禪師が諸嶽寺観音堂と称した真言寺院を寺主定賢の請により、諸嶽山総持寺と改めて曹洞宗の寺院になりました。明治三一年(一八九八)火災に罹り、伽藍を焼失し、現在地に移転しました。能登の旧跡には別院が建てられ、総持寺祖院と称して今日に



至っています。以上の永平寺・総持寺を曹洞宗では両大本山と呼んでいます。

大乘寺 (石川県金沢市)

永平寺三世義介が開山で、道元・懐妊・義介の遺骨が奉安されています。

興聖寺 (京都府宇治市)

道元がはじめて開いた曹洞宗の寺院で、当初は伏見区深草にあったものが、廃絶後に新しく建てられ現在地となりました。

曹洞宗の寺院は全国で一万四千余りあります。こ

の他にも豊川稲荷として有名な妙巖寺(愛知県豊川市)、とげぬき地蔵で有名な高岩寺(東京都豊島区)や赤穂四十七士の墓所がある泉岳寺(東京都港区)なども曹洞宗の寺院です。

以上、三回にわたって曹洞宗をご紹介します。

雷が一鳴り百文か。」

「へいどうなさいますか。」

「景気よく町内全体と、雷さんは十回ぐらいでいいよ。うまくいったら祝儀を出すよ。」

「へい、ありがとうございます。それでは早速。」

「あ、何か呪文を唱え出したよ。なんだろうね、あ、あれをみてごらん。」

それまで雲ひとつなかった空に黒いおももよとしたものがわいてきたかとおもうと一天にわかにかき曇り、雷が光ったとおもうとたんに、ぼつり、ポツリ、ポツポツ、ザーつと土砂降りに

なり、ちようどいい遠さで雷が鳴り、

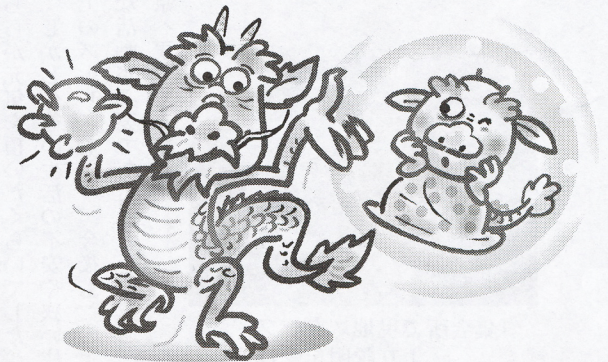
あまり長くは降らず、ちようどいいお湿りでカラツと上がりました。

「これは素晴らしい、いや恐れ入った。これは決まりの料金とこちらは祝儀だ。でもこんなことができるのはあんた人間ではないね。」

「旦那さまにはお教えします。仰るとおりで、私は天界にすむ龍、たつでございませう。天界も不景気で、出稼ぎしなければ暮らせません。」

「でもこの仕事は夏しかできないね、冬はどうするんだい。」

「へい、冬には俵のこたつが参ります。」



こうしたことの無いように、悪を改め善行を積んで輪廻の世界を抜け出し、仏の世界に生まれ、そこで永遠のいのちを生きますのです。しかし、自分の力で、厳しい仏道修行のできない私たちは、ただ口に南無阿弥陀仏と称えて、阿弥陀様の浄土に救っていただくしか方法がありません。これこそが命を大事にするということなんです。ですから、お念仏は、「命」を大事にする究極の仏道修行なのです。

(総本山知恩院布教師会ホームページより)

七月お盆法要のお知らせ

本年の「七月お盆法要」は次のとおりです。

日 時 七月十五日(日) 午後二時より
詳細については別添ご案内をご覧ください。

秋の団体参拝のご案内

本年の団参は別添ご案内のとおり、先代(林錦洞老師)の郷里であります岩手県遠野市にある「善明寺」をお参りします。

「善明寺」は当山住職の兄が住職をしており、境内地には先代が建立した「錦洞文庫記念館」があります。この記念館は先代が収集した数々の書道関係のコレクションなどを展示しているものです。

市の公共施設やホテルなどには先代の作品が多数寄贈されており、遠野市の文化振興に寄与した功績により、名誉市民の栄を受けております。この機会にどうぞ皆様お誘いの上、ご参加下さい。



「金光山善明寺の全景」

東日本大震災被災者の

仮設住宅を慰問

本年三月五日〜六日に福島県いわき市にある仮設住宅を有志で慰問いたしました。

「仏教情報センター」という宗派を超えてさまざまな活動を行っている団体があり、ここで「仏教テレフォン相談」の相談員をしている各宗派の僧侶が今回集まって慰問してきました。

今回の活動は震災から約一年が経つた今、救済物資の支援よりも仮設住宅にお住いの方々と色々な話をする事によって、心の支援ができないか、そしてこれから私たち僧侶に何ができるかを探るべく実施したものです。



「宗派を超えての追悼供養」

初日は先ず、津波により甚大な被害をうけました真言宗の寺に行き、かろうじて残った本堂の前で被害者への追善供養を行いました。寺の真正面が海

岸ですが、海沿いの住宅は全て流され、どこからが寺の参道なのかも分からない状況であり、あらためて津波の恐ろしさを知らされた思いです。

その後、高台にある仮設住宅に行き、現地で住民のお世話をしている社会福祉協議会の方より説明を受けました。

仮設住宅はいくつかの地区に分かれており、津波で家を失った方々もいれば福島原発から避難している方々もいます。地区ごとに集会所があり、ここが情報交換や憩いの場となっているようです。被災者や原発で避難している方々とお茶を飲みながらお話をしました。中には大変明るく、悲惨な経験を冗談のように語る方もいたりして、こちらが元気を頂いたくらいでした。

しかし今後の生活の不安や狭い住宅でのストレスもあり、今後もこのような活動が必要であることを痛感し、東京へ戻ってきました。



「集会所で現地スタッフより説明を受ける」

仏教情報センターについて

仏教情報センターは今年一般社団法人となった団体であり、約三十年の歴史があります。浄土宗をはじめ天台宗・真言宗・曹洞宗・日蓮宗・真宗などの僧侶が無料で電話による仏事や悩み事など、心の相談も行なっています。

当山住職も十年前より相談員として、月一回担当していますので、皆様もどうぞ、お気軽にご利用下さい。

月曜〜金曜 午前十時〜午後四時

(正午より一時間昼休み)

相談窓口 ○三三八二一七四七〇

◇浄土宗一口メモ◇

「浄土宗の本山について」

浄土宗には総本山と七つの大本山があります。今回より数回に分けて各本山の簡単なご紹介をいたします。

「華頂山知恩院」

浄土宗の総本山であり、京都市東山区にあり、法然上人が比叡山を下り最初に念仏の教えを説いた場所でもあります。日本最大の三門(国宝)や法然上人のご遺骨を納めた御廟などがあり、御影堂(国宝)は現在修復中で、完成は八年後の予定です。

当山ではこれまで数回、知恩院の団参を行ってきましたが、是非八年後には修復された御影堂を檀信徒の皆様と共に参りしたいと思っております。

(貞林院瑞正寺)